

## 編集後記

初夏の候、ますますのご清祥をお慶び申し上げます。平素は格別のご厚誼を賜り、心より御礼申し上げます。

『日本學刊』の第二十八号には、香港のみならず、中国や台湾からのご投稿もいただきました。今号に寄せられた「問題な日本語型構文の分析」という論文は、「問題な日本語」に関する興味深い分析を行っています。また、「台湾人の日本に対する認識——香港、シンガポールとの比較」では、外国人の日本に対する理解についての調査分析が行われており、日本と外国との関係改善に役立つと考えられます。「大学の日本語初級コースにおける Chatbot の活用についての考察」は、まさに AI 時代にふさわしい報告だと思っております。著者の皆様に心より敬意を表します。ありがとうございました。

なお、今号では特別にお二人の香港と深い縁のある学者からご寄稿をいただき、大変光栄に思っております。「日本語教師研究としての言語ヒストリーの実践——「広東語との出会い」を事例として——」という論文の著者、上田和子先生は、10年以上にわたり香港の大学で教鞭をとられています。この論文は「言語ヒストリー (LH)」の観点から、日本語教師研究の手法としての意義について検討しており、日本語教育に携わる方々にとって非常に示唆的で啓発的な内容だと考えます。

もう一本のご寄稿である「日本のファミリービジネスにおける長寿企業経営モデルの試行的確立～異文化市場への移植可否の研究—香港教育現場での実験～」は、日本の老舗に関する研究で、日本文化とビジネス管理について斬新な視点を提示しています。著者の古田茂美先生は、長年にわたり中国・香港研究に従事されている学者です。

お二人の先生の論文によって、本号の『日本學刊』の内容はより充実し、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、編集および査読を務めてくださった皆様に改めて御礼を申し上げます。今後とも末永く『日本學刊』が皆様にとって良き交流の場として貢献できれば幸いです。次号へのご投稿を心よりお待ち申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。

皆様のご健康とご多幸を心より祈願いたしております。

日本学刊編集委員会委員長  
梁 安玉  
2025年6月吉日